

くまもと雨庭パートナーシップ 設立趣意書

令和 2 年 7 月に球磨川流域を中心に大規模な豪雨災害が発生したことを受け、熊本県では、河川の整備だけでなく、遊水地の活用や森林整備、避難体制の強化を進め、自然環境との共生を図りながら、流域全体の総合力で安全・安心を実現していく「緑の流域治水」の取り組みが進められています。

このような取り組みは、球磨川流域に限らず、多くの地域で有効な治水対策といえます。その上で、流域の様々な場所で治水効果を高め、個人や企業、学校など多くの方が参画できる取り組みとして、雨水を貯留・浸透させる「雨庭」は、重要な手段だと考えます。

また、熊本県内の生活用水に占める地下水依存率は約 8 割と高く、中でも熊本地域¹はほとんどの生活用水を地下水で賄っている全国的にも稀な地域です。

しかし、都市圏の拡大とともに雨水が浸透しにくい土地が拡大したことで地下水涵養量が減少し、地下水位の低下が懸念されています。雨水を地下に浸透させる雨庭を普及させることは、熊本の暮らしを支える地下水の涵養に繋がります。そのうえ、雨庭の土壌が、細かなゴミや汚染物質を吸着するため、地下水質の保全にも貢献することができます。

さらに、雨庭が各地で整備されることで、景観の保全、生物の生息地創出など多様な効果が期待できるほか、環境教育や地域コミュニティ活動の場、郷土植物の保全の場ともなり得ます。雨庭の整備・普及は、2015 年に国際連合で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」とも親和性が高く、様々な社会課題の解決に繋がる大きな可能性を有しています。

様々な場所で雨庭を導入していくためには、個人、行政、公共団体、民間企業、大学・研究機関等多様な関係者が幅広く参画し、各自の知見、やノウハウ、技術を持ち寄り、雨庭の整備と普及に努めていくことが不可欠です。

こうした認識のもと、私たちは、2030 年までに熊本県内に 2030 箇所の雨庭を整備することを目標に、自発的に雨庭の整備と普及に貢献することを目的とする「くまもと雨庭パートナーシップ」を設立します。

2023 年5月 22 日

くまもと雨庭パートナーシップ設立総会参加者一同

¹ ※ 「熊本地域」・・・熊本市、菊池市（旧旭志村、旧泗水町の区域に限る）、宇土市、合志市、大津町、菊陽町、西原村、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町の 11 市町村の区域